

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

篠原昭二、勝見泰和. 運動時愁訴に対する経筋を応用した遠隔部治療について 全日本鍼灸学会雑誌 2003; 53(1): 4-7. 医中誌 Web ID: 2003270662

1. 目的

運動動作時の症状を経筋病とした遠隔部経穴への治療の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

大学附属鍼灸センター、病院整形外科外来、京都、日本

4. 参加者

運動時の愁訴があり経筋病と判断された外来患者、膝関節痛の外来患者 88 名

5. 介入

Arm 1: 本経治療群 30 名。愁訴と関連する経筋上の滎穴または兪穴へ皮内鍼で約 0.5mm 刺入絆創膏固定。

Arm 2: シヤム群 30 名。Arm 1 と同部位へ絆創膏のみ貼付。

Arm 3: 他経治療群 28 名。Arm1 と隣接する滎穴または兪穴へ絆創膏のみ貼付。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS、膝関節痛患者の滎穴部の圧痛出現率。

7. 主な結果

本経治療群とシヤム群で治療後に有意な VAS 値の減少 ($P<0.0001$, $P=0.029$) がみられた。また本経治療群はシヤム群より治療後の平均値は大きく低下した。膝関節痛の愁訴と関連する経絡流注上では兪穴・滎穴に高頻度に圧痛がみられた。

8. 結論

愁訴のある経絡流注上の滎穴または兪穴への接触刺激は VAS 値が有意に低下させるが、皮下 0.5mm のごく浅い刺鍼のほうがより VAS 値を減少させ、治療効果がある。また症例の多い膝関節痛患者では滎穴・兪穴に圧痛が高頻度にみられる。

9. 鍼灸医学的言及

記載なし。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

滎穴・兪穴への皮内鍼接触刺激で疼痛評価としての VAS 値が減少し、鎮痛効果がみられた興味ある研究である。膝関節痛患者ではその滎穴・兪穴に圧痛が出現し、異常経筋をさぐる指標となるという報告は臨床家が治療方針を策定する手がかりのひとつとなり得ると考える。一方で経筋病と判断した愁訴の記載がなく、群間比較もなされていない。兪穴と滎穴の治療数の割合や、刺激方法や刺激時間、VAS 値の聴取のタイミングなどプロトコルを示して頂くと考察がより明確になると考える。疼痛管理は鍼灸治療が最も適応する分野のひとつであり、膝関節痛以外での結果も考慮して頂き経筋治療の利点・限界を研究して頂きたい。

12. Abstractor and date

古畑敏子 2010.12.8